

理事 就任のあいさつ

沖縄県医師会 理事 比嘉 国基



この度、沖縄県医師会理事を拝命いたしました、社会医療法人友愛会の比嘉国基と申します。

私は1996年に帝京大学医学部を卒業し、沖縄県立中部病院にて初期研修を修了いたしました。その後、帝京大学医学部附属市原病院（現・帝京大学ちば総合医療センター）での外科勤務を経て、2000年からは亀田メディカルセンター乳腺外科にて研鑽を積んでまいりました。2008年より豊見城中央病院（現・友愛医療センター）に赴任し、2020年7月、父であります比嘉國郎（現・名誉会長）より社会医療法人友愛会理事長を引き継ぎ、現在に至ります。

我々医療者が置かれている環境は、皆様のご承知の通り大きく変化しています。患者数の推移や病床稼働率の変動といった需要面、医療提供者の減少といった供給面、さらには社会保障制度改革、円安、賃金・物価高騰といった経営環境、そして地政学的リスク（台湾有事、イラン紛争）など、我々はかつてない問題と課題に直面しております。

このような状況下、私は民間病院の経営者として、地域に必要な医療提供体制の構築に尽力してまいりました。今後は沖縄県医師会理事という新たな視点を加え、沖縄の医療のあり方に

ついて皆様と共に考えていきたいと思っております。

今回、私の主担当は「外国人医療対策委員会」および「警察医師部会」となります。観光地である沖縄において、外国人観光客を医療面から支えることは極めて重要です。これまでも行政と連携し、通訳環境の整備や未収金問題など、様々な課題解決に取り組んできたこと承知しております。今後も増加が予想される外国人観光客の皆様が、安心して沖縄で滞在できるよう、また受け入れる医療機関の体制づくりにも尽力したいと思っております。

最後に、私の父・比嘉國郎は1988年から7期14年にわたり、沖縄県医師会会長を務めておりました。父は、当時金融に携わっておられた田名会長のご尊父様より多大なるご協力を賜り、それが友愛会の発展に繋がったと聞いております。そのような経緯もあり、この度の田名会長からのお声がけに、大変身の引き締まる思いです。

難しい医療環境ではありますが、理事の先生方、そして会員の皆様のお力添えをいただきながら、職務を全うする所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

